

## 『補完医療が必要な時代になってきました。』

～西洋医学の治療だけでは「難病克服は？」～



### ■安藤幸来先生 西宮北クリニック院長

書籍「糖鎖のチカラ」著者

1933年大阪生まれ、大阪大学医学部卒。大阪大学。第一内科で約10年間の研究生活の後、国立病院勤務等々を経て、2004年西宮市に「西宮北安藤クリニック」

(補完代替医療併用)をNPO法人補完代替医療推進センター:理事長 山本英夫との提携支援により開設。

宇宙の歴史を24時間にたとえれば、ほんの30秒から40秒前に人類の祖先が誕生したことになります。人の歴史がたどれるのは1秒にも満たず、0.05秒前によく縄文文化が芽生えました。人類はいままでこそ地球を支配したつもりになっていますが、人は自然の一産物であり、自然の法則からはみ出して生きていくことはできません。自然の恩恵を受けながら、自然とともに生きていくことが、これまでも、そしてこれからも必要で、そこから逸脱したとき、人類は大きなしっぺ返しを受けるでしょう。



地球温暖化による異常気象やガンをはじめとする生活習慣病の蔓延は、まさにそのことを警告しているように思えます。病気や健康について考えるとき、とくに大事な視点は、精神神経系のはたらきです。いまの科学は、次元の科学で、物質を分子構造から眺め、人の持つ精神的な働きを軽視しています。人体をたんなる細胞の集まりとしか見ていません。人間には意見があります。考えることもできます、感動のあまり涙を流すこともありました。また、かわいそうな話を聞いて胸がふさ

いだり、涙をこぼしたり、大声で泣くこともあるでしょう。このような精神的なはたらきが体を元気付けたり、反対に衰弱させたりと、体に多大な影響を及ぼしているのです。

これは、「心のはたらき」と考えられています。心について科学はまだほとんど解明できてはいません。21世紀の医療では、心が精神神経系を通じて体にどのような治療を施すことができるかが、大切なポイントとなってくるでしょう。

アメリカにおける疾患の治療報告を見て、私も約3年前、宮崎の病院に勤務していた当時からその効果に期待し、慢性の治りにくい病気をもつ何人かの患者さんに糖鎖栄養素を試してもらい、その効果を観察したことがあります。

糖鎖栄養素は「食品」に分類されます。現代の医学が血眼になっても治せないような病気に、糖という簡単な食品がいったい効果あるのだろうか。当初は心許なく感じていたことを記憶しています。2年前に関西にクリニックを開設してからも、多くの患者さんに治療と並行して糖質栄養素を飲んでもらっていますが、そのなかで明らかに効果が認められた例をいくつか紹介しておきましょう。なかでも注目すべきは、**糖鎖栄養素を飲むことで、悪性リンパ腫の患者さんが抗がん剤をまったく使うことなく快復したこと、現代医学ではほとんど改善できない脊髄小脳変性症や筋萎縮性側索硬化症にもきわめて良好な効果が認められたことです。**さらにたとえ一時的にせよ、強い精神的なストレス、すなわち交感神経系の過度の緊張によって、一度は改善した症状もたちまち悪化すると

いう厳然たる事実を、患者さんの症状をとおして把握できたことです。ほかに、**子宮内膜症**の治療によってほとんど萎縮し消失したかと思われた子宮と卵巣がわずか一ヶ月で完全に復調したケース。あらゆる抗生物質によっても助けられなかった**重症の肺炎の患者さんが**わずか数日で軽快退院できたケース。**喘息やアトピーのような慢性の疾患**でも明らかに良くなっていったケース等々・・・いずれも私にとっては貴重な



経験でした。さらに加えて、人間の体は正常な状態に戻ろうと必死に努力していても、その材料と条件が揃わないかぎり快復のプロセスには入っていけないこと。しかしいったん材料や条件が揃うと、あとは**自然に正常になっていく力(治療系の力)が機能し始める**ことを、しっかり確認することができました。

■ それでは、糖質栄養素を用いて効果を表した患者のケースを記します。

- ◆ **多型滲出性紅斑 S・Aさん(女性・34歳・主婦)**  
アレルギー体質の湿疹が漢方薬との併用で消失した
- ◆ **乳がん Y・Kさん(女性・49歳・プロデューサー)**  
自覚症状が好転して元気にプロデューサー業に専念
- ◆ **気管支喘息 H・Nさん(女性・26歳・看護婦)**  
仕事を休むこともあった激しい発作が短期間で解消
- ◆ **掌せき膿疱症・アトピー性皮膚炎 M・Sさん(女性・33歳・主婦)**  
少量の使用で手と四肢の水疱とアトピーが軽くなった
- ◆ **アトピー性皮膚炎 A・Tさん(女性・26歳・女性)**  
ステロイド剤をやめ代替医療法で元の皮膚に戻ってきた
- ◆ **悪性リンパ腫 K・Nさん(女性・42歳・事業家)**  
リンパ節の腫瘍が縮小してNK細胞の活性が高まる。

